



# 町並みづくりの道しるべ

津屋崎千軒の風情を守り育てるために

津屋崎千軒まちなみガイドライン

## 目 次

- 
1. まちなみガイドラインとは 5
    - まちなみガイドラインの目的
    - まちなみガイドラインの位置付け
    - まちなみのとらえ方
  
  2. 津屋崎千軒のまちなみ 11
    - 津屋崎千軒の歴史 13
      - (1) 津屋崎千軒の成り立ち
      - (2) 津屋崎千軒の地形
    - 津屋崎千軒のまちなみの現状 23
      - (1) 自然的要素
      - (2) 歴史・文化的要素
      - (3) 建築・空間的要素
      - (4) コミュニティ活動
  
  3. まちなみガイドラインのテーマと基本方針 49
    - ガイドライン作成のためのワークショップ
    - これからのまちなみのテーマ

4. 津屋崎千軒まちなみガイドライン

69

- ①高さをそろえる
- ②壁面線をそろえる
- ③デザインを工夫する
- ④外構をしつらえる
- ⑤小物に気づかう
- ⑥伝統的な空間を生かす
- ⑦色をそろえる
- ⑧広告物や看板はひと工夫する
- ⑨お店はまちなみと調和する



5. まちなみデータベース

151

石垣    スアイ・ヒイヤ    神社    寺院  
祠・地蔵    石碑    藍色の標識    樹木  
古写真    まちなみ復原 CG  
未来への提案





# 1. まちなみガイドラインとは



## まちなみガイドラインの目的

景観づくりを進めるにあたっては、市民や事業者のみなさまの主体性に負う部分が大きく、ひとりひとりが景観づくりの主役といえます。これからは行政と力をあわせ、それぞれの立場から景観づくりに取り組んでいくことが重要です。

そのためにも、共通認識に基づき自らが目標像を定め、これを守り・育てるとともに、それぞれが役割を担うことが求められます。

津屋崎千軒まちなみガイドラインは、豊かな自然、伝統文化を損なうことなく、良好なまちなみが形成されるよう、地域の特性や課題を整理し、まちなみの目標や方針、推進の方策を示すものです。

このガイドラインが、広く・長く浸透し、創意工夫も加わりながら、良好なまちなみの実現に寄与できることを願っております。



## まちなみガイドラインの位置づけ

津屋崎千軒まちなみガイドラインは、許可・届出の必要のない建築行為等にあっても、景観形成への協力を呼びかけ、市民や事業者のみなさまに自主的に活用していただくことを意図しています。

歴史的なまちなみを手がかりにしながらも、物的資源に依存するだけではなく、地域の底上げを図り、まち全体の将来像を構想するための起点としての活用が期待されます。

また、作成にあたっては、津屋崎千軒に関係のある多くのみなさまとの共働作業を行いました。ここには、津屋崎千軒のまちなみが、地域のそして我が国の共有の財産としてふさわしいものに育って欲しいという願いがこもっています。



## まちなみのとらえ方

過去のまちなみは、自然の変化、産業立地や市街化の変化、建物による変化などからとらえます。これらは、原風景としても記憶に残っている部分の景観のことです。

現在のまちなみは、建物の形態（高さや色彩など）の他に、建物と自然との関係、遠景や近景との関係などから判断され、特徴をつかんでいきます。

過去と現在をふまえ、未来のまちなみの目標像やテーマを考えていきます。

歴史	自然環境の変化 産業や都市化による変化 建築による変化	記憶された形態
現状	四季の変化 昼夜の変化 人や物の動き ①自然的要素 ②歴史・文化的要素 ③建築・空間的要素 ④コミュニティ活動	まちなみの現状と特徴
未来	目標像・作法	

津屋崎千軒まちなみガイドライン

まちなみのとらえ方と本冊子の構成



## 2. 津屋崎千軒のまちなみ



# 津屋崎千軒の歴史

- (1) 津屋崎千軒の繁栄
- (2) 津屋崎千軒の衰退
- (3) 津屋崎千軒のまちの成り立ち
- (4) 津屋崎千軒の地形



## 津屋崎千軒の繁栄

関ヶ原の戦い（1600年）の恩賞により、黒田長政公が筑前の領主となり国づくりが行われました。津屋崎では、長政公の家来であった佐治家が、慶安4年（1651年）から屋号を紅粉屋べにやと称して酒造業を始めました。以降、明治のはじめまで二百数十年間に渡って佐治家の酒造りは続きました。

また、近世における津屋崎の産業としては製塩業があります。寛文8年（1668年）に勝浦塩浜かんぽう、寛保3年（1743年）に大社元七おおこそもとしちによって津屋崎塩浜で製塩が開始されました。塩の生産と販売により津屋崎には多くの人々が集まりました。江戸時代、勝浦・津屋崎塩田の生産量は、筑前全体の9割を占め、大きく他を引き離していました。

さらに大量生産された塩を輸送する海運業が盛んになり、五十集船いさばせんと呼ばれる商船が、津屋崎の港から西日本を中心に、瀬戸内海や日本海沿岸まで塩を輸送していました。そして、帰り荷として各地の海産物や農産物、鉄や衣類、薬、タバコ等を津屋崎に運んで来ました。

それらを扱う商家や加工業者が集い、津屋崎は筑前有数の浦として大変賑わい、津屋崎千軒と言われるようになりました。これら商家には廻船問屋唐津屋や豊村酒造などがあります。



## 津屋崎千軒の衰退

明治23年に九州鉄道の博多－赤間間、明治24年に門司－熊本間が開通しました。その後は陸上交通の発達に伴い、海上交通は次第に衰退しました。

昭和12年頃には日中戦争の軍需景気により五十集船は一時息を吹き返したものの、現在では一隻もみられません。さらに、明治44年から45年にかけて、塩の専売制に伴い、塩田は廃止となりました。

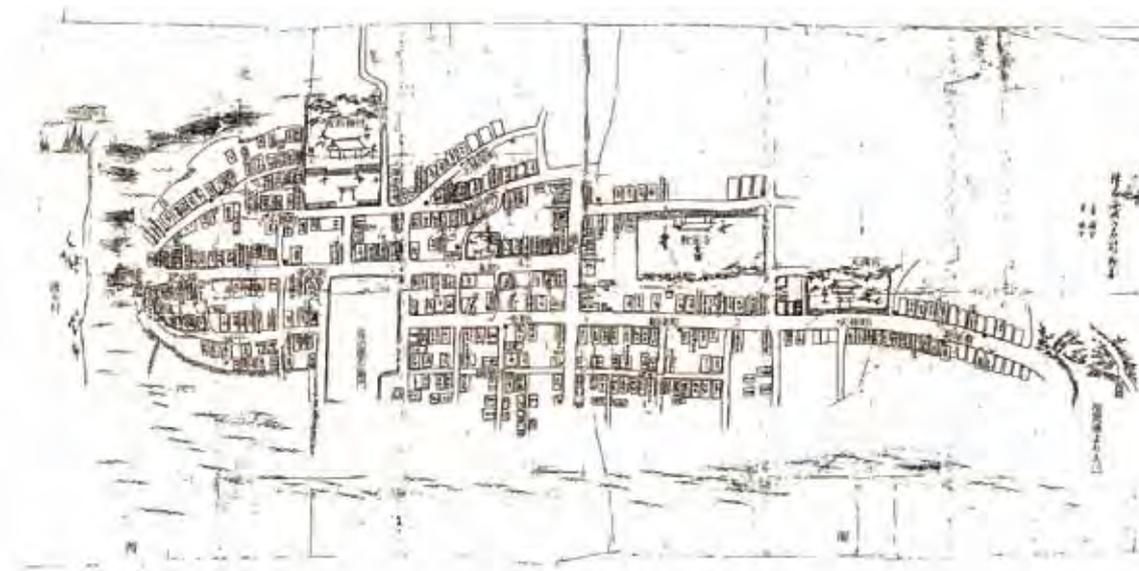


五十集船（大正～昭和初期）  
（津屋崎町史より）



## 津屋崎千軒のまちの成り立ち

津屋崎は、江戸時代、浦と村に分かれていました。浦は、漁業・海運業・商工業に従事する人達の集落でした。また、村は、農業に従事する人々の集落でした。現在の北の一、北の二、新町が津屋崎浦として新宮・箱崎<sup>ふれ</sup>触等に属しており、天神町、岡の二、岡の三は津屋崎村として勝浦触に属していました。その後、明治政府となり、津屋崎浦と津屋崎村とを合わせて津屋崎村になりました。



江戸時代の津屋崎千軒の絵図（津屋崎町史より）

（この絵図は浦を示しています）

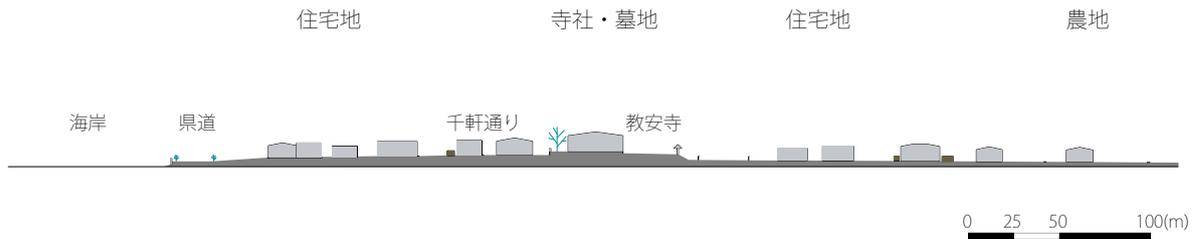


## 津屋崎千軒の地形

津屋崎千軒は、海岸線に並行する千軒通り（現在の北の一の端～ウオズミ洋服店まで）を軸としてまちを形成しています。

地形は、千軒通りを頂点として、南北の方に土地が少し低く、ゆるやかな丘のようになっています。高低差は最大で4メートル程度です。

千軒通りの北側には微高地が数カ所あり、波折神社、教安寺などの寺社があります。天神町区の微高地には、江戸初期から昭和50年代まで墓地がありました。寺社や墓地のある場所以外が一番高い部分に道が通り、現在の千軒通りになったと考えられます。



南北方向地形断面



# 津屋崎千軒のまちなみの現状

- (1) 自然的要素
- (2) 歴史・文化的要素
- (3) 建築・空間的要素
- (4) コミュニティ活動



## 水平線

『北部九州沿岸の海岸線は、西の志賀島から東の北九州に至る海岸を「ひろげたパラソルのふち」と形容されるように玄界灘に突き出るようにして、突端の岩礁部（岬・鼻・崎）と弧状（弓状）を描く美しい砂浜が連なっている。』（津屋崎町史）と言われ、津屋崎の海岸も美しい風景をつくり出しています。水平線に沈む夕日は、とても美しく、大切にされている風景のひとつです。

千軒通りと交差する路地と水平線が生み出す景観は、近景・中景・遠景が見事に調和しています。また、微高地の千軒通りから海に向かって歩くと、水平線の高さの変化を楽しむことができます。



千軒通りからみる水平線



## スカイライン

津屋崎千軒の建物は、多くが2階建てです。

建物の高さは、空の見え方に影響を与えます。一定の高さのスカイラインはまちなみに安定感を与え、ランドマーク（陸上の目印・その土地の象徴となるもの）の存在を引き立ててくれます。

津屋崎千軒の中心にある豊村酒造の煙突は、地域に愛され続けているランドマークです。



豊村酒造の煙突と蔵がつくるスカイライン



津屋崎千軒の西端にある津屋崎橋から大峰山の頂上までは、約650メートル(直線距離)です。

大峰山は、津屋崎千軒のまちなみの背景に見えるランドマークです。千軒通りを西に進むと、徐々にまちなみの遠景として大峰山の稜線が見えてくるのが特徴的です。



千軒通りから見える大峰山



## 樹木・植栽

津屋崎千軒で見られる樹木のひとつに「ハマボウ」があります。7～8月にかけて直径5センチほどの黄色い花を咲かせます。秋には紅葉するのも見どころです。海岸の泥地に自生する福岡県内では珍しい海岸植物ですが、近年、数が減少しています。

津屋崎千軒では、軒先のプランターなど植栽が豊かなことも魅力です。

また、波折神社の境内にある銀杏の御神木ごしんぼくは、福津市指定の天然記念物とされています。



ハマボウ

(撮影：牧忠孝氏、提供：柴田富美子氏)



## 豊村酒造

豊村酒造は、津屋崎千軒の代表的な伝統的建築物です。

漆喰壁<sup>しっくい</sup>、鏝<sup>こて</sup>絵、高い板塀などが特徴的です。

創業明治7（1874）年ですが、建物の保存状態がよく、地域のシンボルとなっており、長く親しまれています。



鍵型に折れている千軒通りの曲がり角に建つ豊村酒造

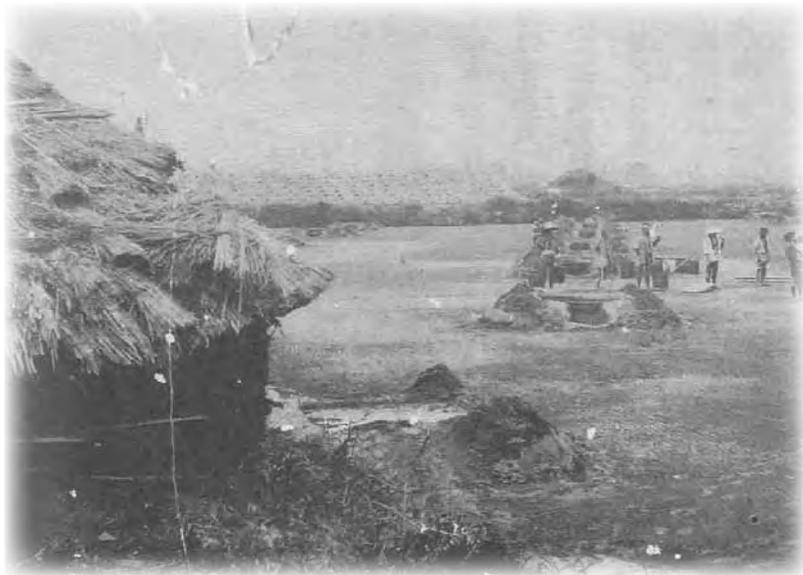


## 塩倉庫 (旧熊本塩務局津屋崎出張所)

通称「塩倉庫」は、明治政府による塩の専売制のもとで、塩田に関する重要書類を保管した文書庫です。明治末に塩田が廃止されたことで役目を終えました。

勝浦塩浜で寛文8年(1668)、津屋崎塩浜で寛保3年(1743)から製塩がはじまり、明治期にも、福岡県の生産量の3分の1を占めていました。「塩倉庫」は、その時代の名残を残す建物です。

近年では、この建物を利用してコンサートなどイベントが行われました。



明治 33 年頃の塩田の風景（津屋崎町史より）

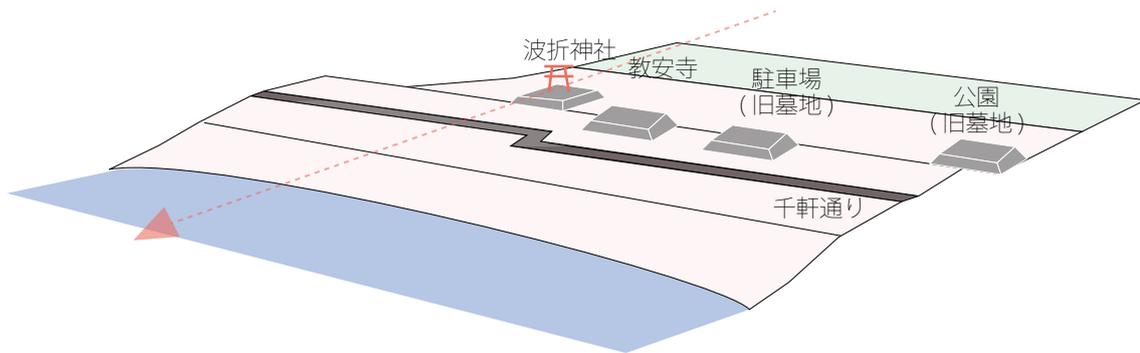


## 波折神社

波折神社は微高地にまつ祀られています。

神社縁起によると、漁師が嵐にあった時、さんしん三神が現れ波を鎮められたので助かったと伝わっています。津屋崎浦、村の氏神としてまつ祀られています。

代表的な祭礼行事としては、7月に祇園祭が行われます。津屋崎人形師によって作られた山笠がかまちを昇いて廻ります。



津屋崎千軒の地形モデル  
波折神社などの聖域は微高地に位置



## スアイ・ヒイヤ

津屋崎千軒には、隣家との間に塀がなく、約1m程度の生活道が存在します。津屋崎千軒の中でも、岡の方ではスアイと呼ばれ、北、新町あたりではヒイヤと呼ばれていました。

スアイ・ヒイヤは、日常生活の通行や火災時の抜け道として利用されていました。現在では、住宅を拡張したり物を置いたりすることなどにより、その多くが姿を消しつつあります。

※当ガイドラインでは、この生活道を「スアイ」と統一表記しています。



スアイの幅は様々で、2メートル近くのものもあれば、  
1メートルもないものもあります。



## 津屋崎千軒民俗館「藍の家」(旧上妻染物)

藍<sup>あい</sup>の家は、明治34年に建てられた藍染めを主とする染物屋(旧上妻家住宅)でした。通りに西面する木造2階建の平入町家で、桁行6間梁間4間半の切妻造棧瓦葺です。正面中央の戸口両脇を格子で飾り、2階壁の白漆喰<sup>しっくい</sup>塗<sup>しおぎ</sup>、塩木の大きな梁<sup>はり</sup>や三和土<sup>たたき</sup>土間などを残しています。

平成6年に旧津屋崎町へ寄贈され、現在は福津市が建物の保存・管理を行い、藍の家保存会によって運営されています。平成19年に国登録有形文化財に登録されました。

ギャラリーやミニコンサート、藍染め体験など、伝統的な空間を活かしながら、地域のコミュニティ活動の中心となっています。



藍の家正面



## 町家の構成要素

津屋崎千軒で見られる町家の構成要素として、瓦・格子・<sup>こうし</sup>卯建・<sup>うだつ</sup>鋳絵・<sup>こてえ</sup>漆喰などがあります。

卯建とは、隣家との間に1階屋根と2階屋根の間に張り出すように設けられた壁のことで、防火の役目を果たしました。鋳絵は、漆喰を用いてつくられる浮き彫り細工のことで、豊村酒造の正面にも見ることができます。



瓦



格子



卯建



漆喰壁と鑊繪 (豊村酒造)



## 伝統的コミュニティ（北・新町・岡）

明治5年に、津屋崎浦と津屋崎村が津屋崎村となりました。現在でも北の一区、北の二区には漁業に携わる方々が、新町区には商店が、天神町区、岡の二区、三区には職人の店や農家が比較的多く見られ、当時の特性を継承しています。

しょうとく  
正徳2年（1712年、一説には正徳4年）から行われている祇園祭では、北・新町・岡の3つの流があり、現代まで継承されています。



旧町名と山笠の流



## 現代的コミュニティ

近年では、文化サークル、まちづくり団体など、それぞれの趣向に応じた新たな活動が生まれています。

このような活動から派生する交流も生まれています。新たな活動が、現在の津屋崎千軒を活気づけています。

- 津屋崎郷づくり
- 藍の家保存会…国登録有形文化財である藍の家の運営
- 藍色の会…藍の家で藍染めの勉強、作品づくり
- 海とまちなみの会…津屋崎千軒のまちなみ保全を目的として、津屋崎千軒の観光ガイドや「ふるさと塾」、町興しと催事開催等
- 津屋崎ブランチ…津屋崎を中心としたまちづくり活動等
- 山笠保存会
- 老人クラブ
- いきいき夢の会



### 3. まちなみガイドラインのテーマと基本方針



# ガイドライン作成のためのワークショップ



## ワークショップの過程

1. まちあるきによる景観の読み取りと共有
2. まちなみの目標像を描く
3. まちなみガイドラインを考えよう その1
4. まちなみガイドラインを考えよう その2
5. まちなみガイドラインを完成させよう

中間研究会

2011年に広報「ふくつ」にて公募し、全5回ワークショップと中間研究会を開催しました。



ワークショップの様子

まちあるきでは、これからのまちなみに対して、多くの希望が出てきました

町家が連なる  
2階建ての方がいいのでは

お堂は大切な景観要素  
火除けの神様を祀る

まちなみを意識した弾  
高さが海へ向かうと変わる

洒落たデザインもある  
自販機は木組格子で覆う

酒造への景色が好き  
煙突が見える景観が良い

垂乃井旅館  
昔は目の前が海だった

格子や白壁が美しい  
木製建具は残したい

ベンチがもっと欲しい

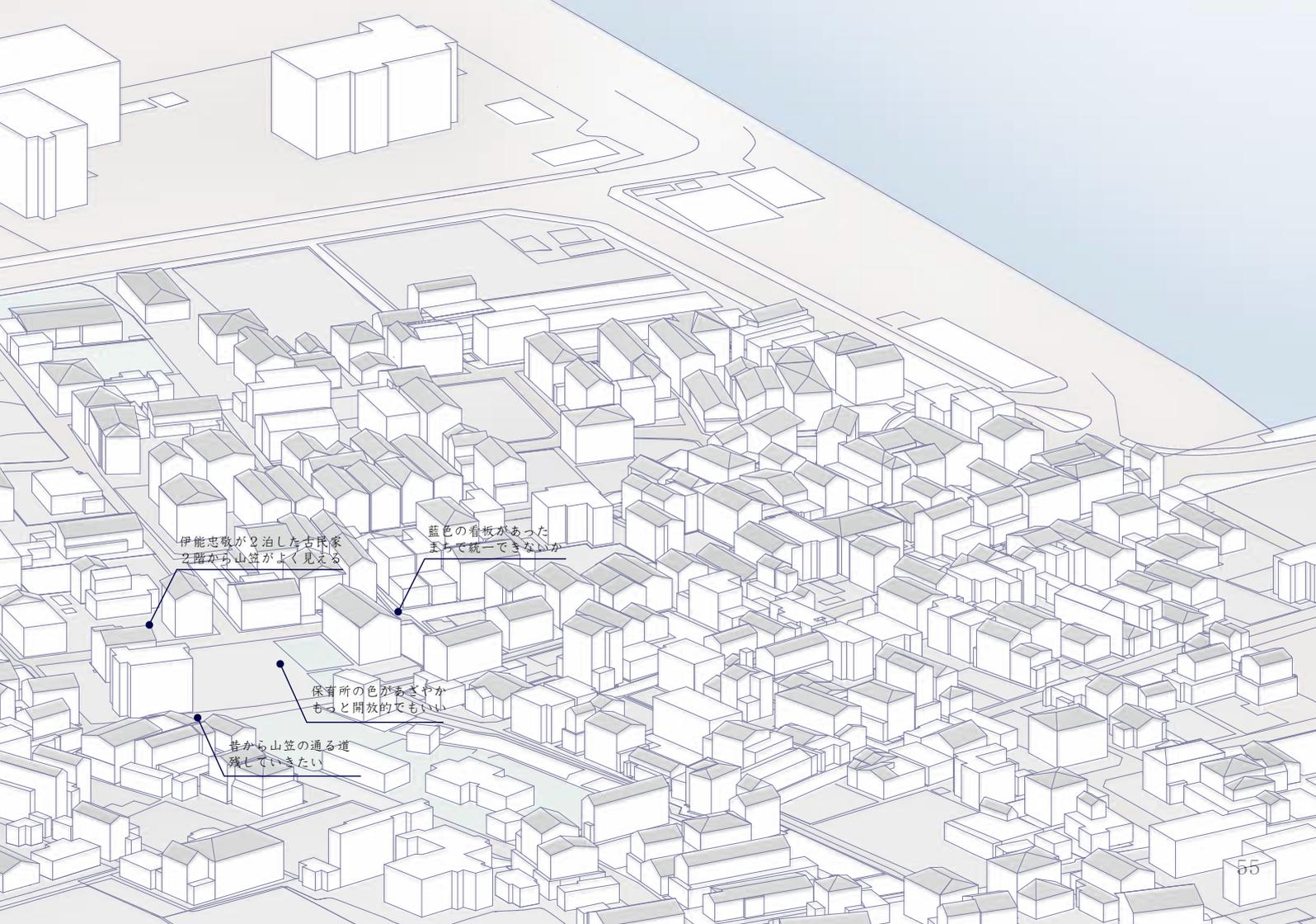
住所のサイン  
津屋崎らしい色が好ましい

おすすめの写真スポット  
軒通りの意匠の煙突が見える通り

ハマボウが黄色の花を咲かせる  
もっと増やしたい

電柱を地中化しない  
道が湾曲しているのがいい

コンクリートの壁ができて残念



伊能忠敬が2泊した古民家  
2階から山笠がよく見える

藍色の看板があった  
まちで統一できなにか

保育園の色があざやか  
もっと開放的でもいい

昔から山笠の通る道  
残していきたい

	目標像		事例
建築物	高さ	2階建て (10m以下程度)	
	屋根	形式	2方向の勾配屋根 切妻、入母屋など
		材料	瓦葺きなど
		色彩	黒又は灰色系統の落ち着いた色
	軒・庇	形式	軒・庇を設けることが望ましい
		材料	瓦葺き、銅板葺きなど
		色彩	黒又は灰色系統の落ち着いた色
	外壁	色彩	自然素材に近い色、派手な色は避ける
	開口部	格子を設けるなど	
	外構	材料	板塀、生垣、白壁とする
色彩		自然素材を活かした色とする	
設備等	公共空間に面する場所には室外機、ポンベ等の設備を設置しない ※困難な場合は、木製格子などで覆う		
工作物	-	電柱の地中化	 <p>《高さ》 ・2階建て</p> <p>《設備》 ・室外機等を公共空間に面する場所に置かない</p> <p>《屋根》 ・瓦葺き ・二方向の勾配屋根 ・切妻 ・黒系統の落ち着いた色</p> <p>《外壁》 ・漆喰壁 ・自然素材に近い色</p> <p>《軒・庇》 ・軒・庇を設ける ・瓦葺き ・黒系統の落ち着いた色</p> <p>《開口部》 ・格子を設ける</p> <p>《スアイ》 ・隣家との間隔を保つ ・扉、欄を設けない</p>
		ばんこの設置	
		自動販売機の色彩計画、囲い	
		サイン計画	
		照明計画	
		屋外広告物規制	
スアイ	-	隣家との間隔を保ち、塀などを設けない	
駐車場	-	配置計画	

第2回ワークショップの成果

## A グループ

- 高層建築を規制して、まちのシンボルでもある豊村酒造の煙突がどこからでも見えるようにしたい。
- 屋根や壁のトタンをどうにかしたい。
- うだつを残したい。
- 色に関しては細かく定めたい。
- ばんこがあると、人の活動がまちに映り（将棋さし、夕涼み等）、つながりも増す。
- 家の前に植栽を置くようにしたい。立ち止まることで会話が弾む。
- 街灯が少ないのであったほうが良い。
- 赤いポストを置きたい。
- 自動販売機はあって良いと思う。しかし、色の規制や囲いなど措置は必要。

## B グループ

- 12m以下に規制してほしい。
- 全部は難しいかもしれないが、部分的には2階建て以下にしたい。
- ソーラーパネルはどのように扱うのか。
- 調和=美しさを感じさせるまちなみ。
- 洋風が好きな人でも妥協できるものでなくてはならない。
- サッシを格子窓に変えると補助金が出る等の仕組みを作ってはどうか。
- 地域ごとに景観計画を行う。
- 漁工町、商人町を分ける必要があるのでは。
- 建て替えのときに、駐車場を道路側に設けると、連なった町並みが壊れてしまう。
- 観光客の駐車場の確保が必要。

## C グループ

- 板の木目の方向も考えたい。
- 四季を感じさせるものを置く。（風鈴、すだれ、樹木等）
- 格子の玄関口。
- 風がぬけるように、塀を置くならば凹凸のあるものに。
- 藍色のサインで統一したい。
- 室外機やガスボンベはスアイにも出さないようにする。（くぼみに置けるような計画）
- スアイに面した窓をつくる。
- 勝手口、井戸でのコミュニケーション。
- 駐車場の地面の素材をコンクリートではなくまくら木等にしてはどうか。
- 駐車場のルールを設けるべき。

まちなみルールの議論



これからのまちなみのテーマ



これからのまちなみのテーマ

## まちなみを守り育てていくためのテーマ

津屋崎千軒まちなみガイドラインを作成のためのワークショップにおいて、まちなみガイドラインの主なテーマを住民の方々と考えました。

3つのテーマに共通していることは、スアイという伝統的な空間が継承されていること、歴史や伝統を大切にしていること、生活の空気や雰囲気を感じられるまちであることです。

これまで大切にされてきたまちなみを次の世代にも伝えていけるように、このガイドラインを生かしていくことを考えていきましょう。

『スアイこうらけねえ 伝統の間を風が運ぶまちなみ』

(こうらけねえ…こんなに、なんとまあ等、予想外ということを表す言葉)

『そうつこうや津屋崎 息づかいが感じられる生活が見えるまちなみ』

(そうつこうや…歩いて回ろうよ、という意味)

『しみじみ歩く千軒通り スアイからほろりと薫る暮らしの風』

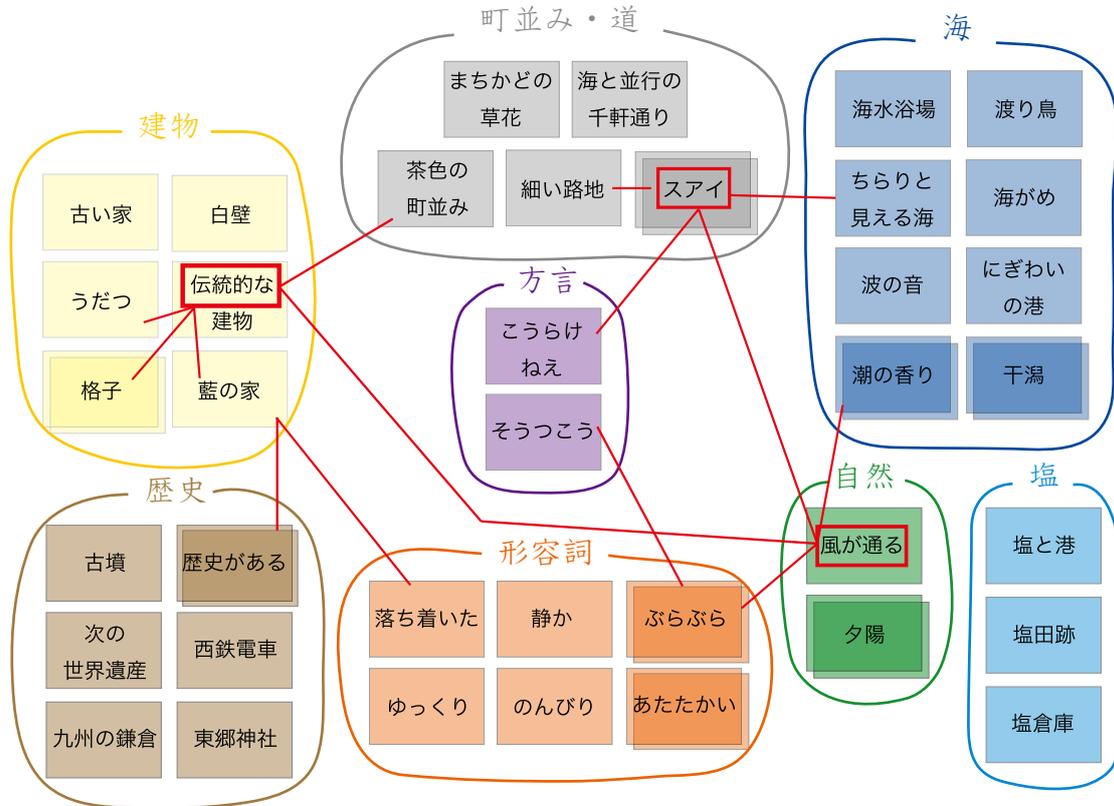


## スアイこうらけねえ

### 伝統の間を風が運ぶまちなみ

「こうらけねえ」とは、＝「こんなに沢山。なんとまあ。」という意味を示す津屋崎の方言です。スアイがたくさんあるというのは、津屋崎を象徴するような風景です。

千軒通りやスアイを歩くと、当時の面影を残す建物などに会うことができる歴史の残るまちです。



ワークショップから出された意見より①

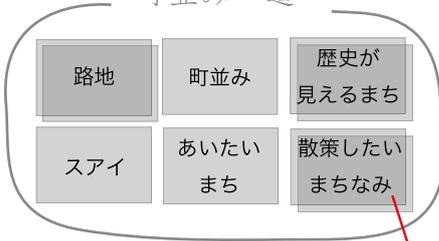


## そうっこうや津屋崎

### 息づかいが感じられる生活が見える古いまちなみ

「そうっこうや」とは、「歩いて回ろうよ」という意味の津屋崎の言葉です。津屋崎千軒のまちなみは、細い路地が特徴的です。ゆっくりと歩いてみると、細い路地のむこうに海が見えたり、家々の生活の様子が垣間見えたりします。津屋崎千軒という言葉は、千軒も民家があるほどに栄えているということから、江戸から明治期にかけて言われた言葉です。昔から民家がひしめき合っていて、細い路地があるからこそ、人々の生活の様子も身近に感じられるまちなみとなっています。

町並み・道



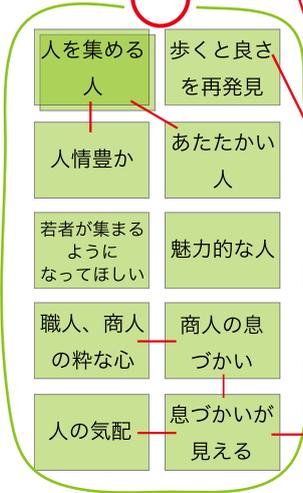
海



建物



人



形容詞





## しみじみ歩く千軒通り

### スアイからほろりと薫る暮らしの風

津屋崎千軒のまちなみを歩いていると、潮風や山から吹いてくる風を感じることができます。スアイは人の通る道であると同時に、風の通り道にもなっています。また、昔ながらの住宅には、格子などの伝統的な要素があります。格子もまた、細やかなすき間から、風を通すものになっています。そのように風が通って行くことで、千軒の中ではいろいろな風を体感しながら歩くことができます。

### 建物

煙突	瓦、屋根
津屋崎橋	鰻絵
卯建	古民家

### 町並み・道

町並み	更新されていくまち
千軒通り	また来たくなるまち
路地	スアイ

### 海

海と山	カプトガニ	かもめ
風の音	干潟	四季を通して変わる海
波の響き	海	漁港
ちらりと見える海	潮風	夕日

### 暮らし

こうじの匂い	晩ご飯の匂い	人情
日本酒	食材の豊かさ	生活の風
刺身	暮らしが感じられる	生活が見える
木と石	近所付き合いが濃い	歩く

歩く

### 形容詞

しみじみ	ほろり	古い中にある新しさ	古い
ゆっくり	あったか	のんびり	ほっこり
藍色	白と黒	和風	静か



## 4. 津屋崎千軒まちなみガイドライン



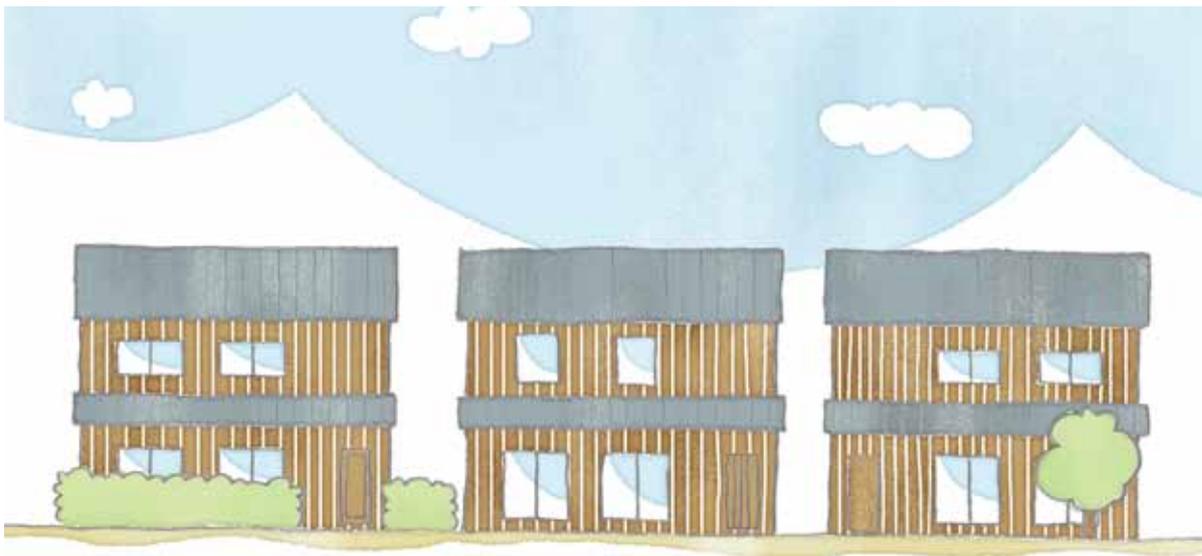
① 高さをそろえる



① 高さをそろえる  
のきさき

## 軒先の高さをそろえる

軒先の連続性はまとまりのあるまちなみを感じさせるために重要な要素です。建物は、2階建てを基本とし、周囲の建物と軒をそろえるようにしましょう。津屋崎のような2階建ての多いまちなみでは、<sup>ひさし</sup>庇や<sup>ていかいそう</sup>低階層のデザインを調和させるとさらに良好なまちなみになります。



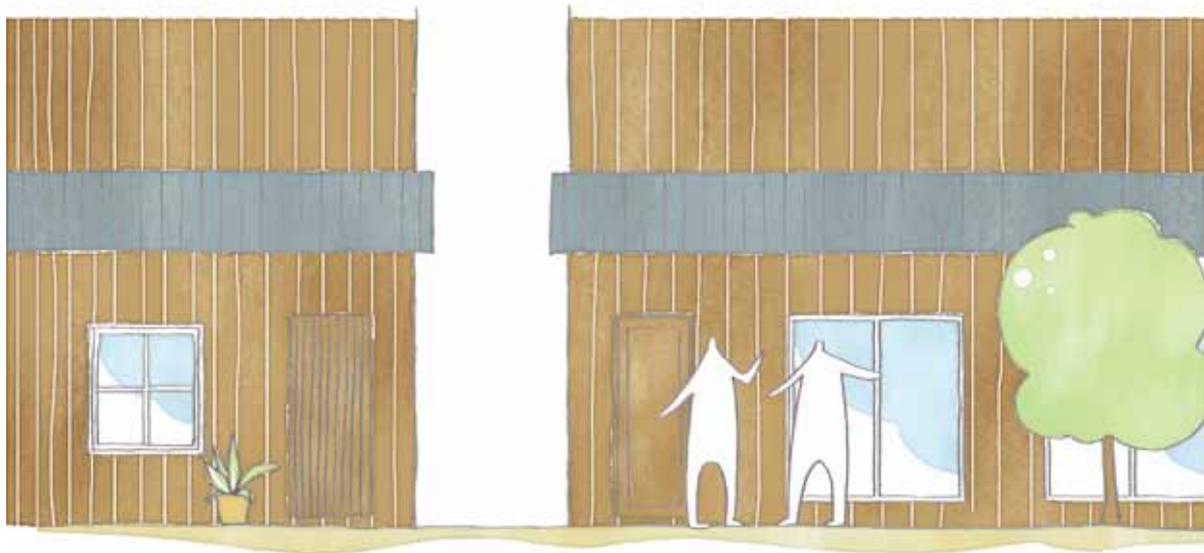
◎ 隣軒との軒先をそろえて連続させましょう



① 高さをそろえる

## 窓や扉の高さをそろえる

のきさき  
軒先だけでなく、窓や扉の高さをそろえることでさらにまちなみの統一感が生まれます。できるだけ窓は近隣の住宅の高さに合わせ、扉は2mあたりの高さに抑えましょう。



◎ 窓や扉などの高さは周辺の建物に配慮しましょう

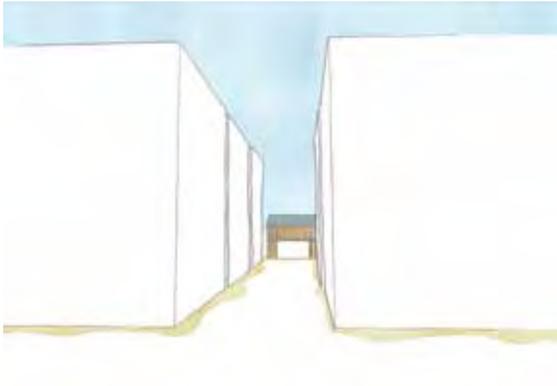


## ① 高さをそろえる

# 建物の高さをそろえる

圧迫感の少ないまちなみをつくるために、建物の高さに配慮する必要があります。特に千軒通りのような歴史的要素が残存する空間では、低層の建物の連続性により、一体感のあるまちなみをつくる心がけが重要です。

隣接地に対しては、日照、通風に配慮しながらも、建物の1つ1つが周辺環境に調和するような高さを持つことで、統一感のあるまちなみになります。



△ 高層の建物が増えると街のシンボルである煙突が見えなくなってしまう



◎ 2階建てが連続するまちなみの中では街のシンボルが引き立ちます



## ① 高さをそろえる

# 建物の高さを抑える

津屋崎千軒は、現在高度地区こうどちくに指定されているため、建物の絶対高さが定められています。階数かいすうや階高かいだかを抑え、建物の高さを12m以下とすることが必要です。このように高さをまち全体で統一することで、景観のまとまりが生まれていきます。

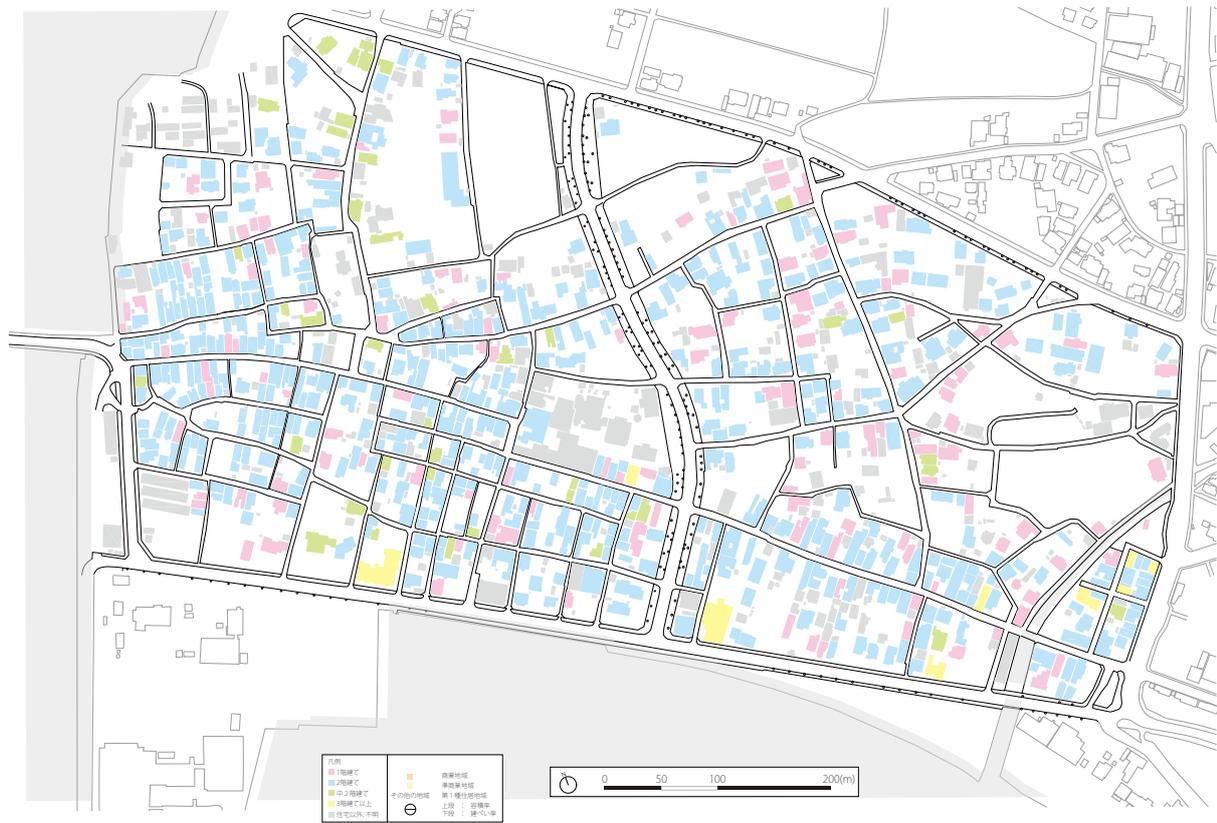
※高度地区：都市計画法第9条に定める「用途地域内において市街地の環境を維持し、又は土地利用の増進を図るため、建築物の高さの最高限度又は最低限度を定める地区」のこと。環境維持のために建築物の高さを制限したり、高度利用のために低さを制限したりする地区に定められる。高度地区内においては、建築物の高さは、都市計画で定められた内容に適合するものでなければならない。



△ 周辺になじまないような大きな建物は  
規制されています



◎ 津屋崎は高度地区に定められています



建物高さ分布図

② へきめんせん 壁面線をそろえる



② 壁面線をそろえる

へきめん こうたい

## 壁面を後退する

3階建て以上の建物などは、<sup>へきめんこうたい</sup>壁面後退させることで、建物の連続性をつくり、統一感のあるまちなみを保全します。

3階建て以上とする場合は、3階以上の<sup>へきめん</sup>壁面を<sup>こうたい</sup>通りから後退させて歩行者から見えにくくするなど、<sup>けいたい</sup>形態、<sup>いししょう</sup>意匠を工夫し、周囲の景観との連続性を守るようにしましょう。



△ 2階建てが多いまちなみに3階建てが建つと  
壁面の連続性がなくなってしまいます



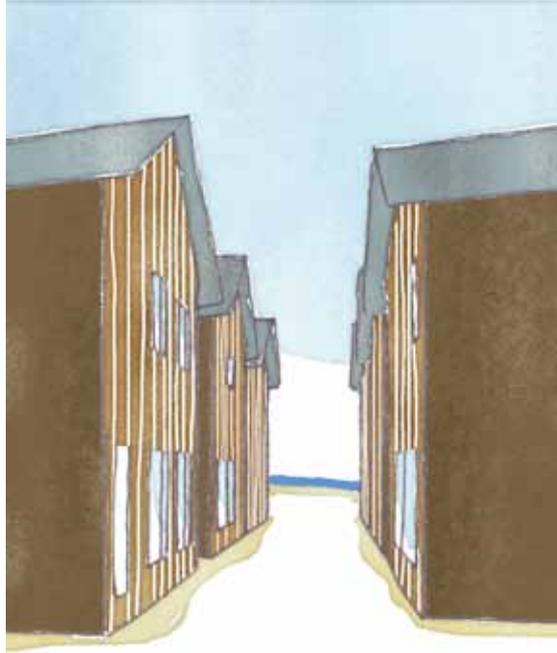
◎ 3階部分の壁面を後退させて連続性を  
つくりましょう



② 壁面線をそろえる

## 建物相互の距離を保つ

津屋崎千軒にあるスアイの幅は平均して1.2m程度です。隣<sup>りんせつち</sup>接地と相互に協力することで、隣<sup>りんどうかんかく</sup>棟間隔を確保し、伝統的な共用空間であるスアイが生まれます。周辺環境に合わせて建物間の距離を保つことで、ゆとりのある空間が生まれます。



◎ スアイを活かすように建物の距離をとみましょう



② 壁面線をそろえる

かべ

## 壁同士でまとまりをつくる

連続する壁面<sup>へきめん</sup>は、まとまりのあるまちなみを感じさせます。そのため、通りに面<sup>かべ</sup>する壁の位置は、周囲より大幅に突出<sup>とっしゅつ</sup>、または後退<sup>こうたい</sup>させないようにしましょう。ただし、道路の幅が4m未満の場合は、建築基準法により道路中心線から2m後退<sup>こうたい</sup>させる規定が優先されます。



△ 通りに対して壁面のまとまりが  
なくなってしまいます



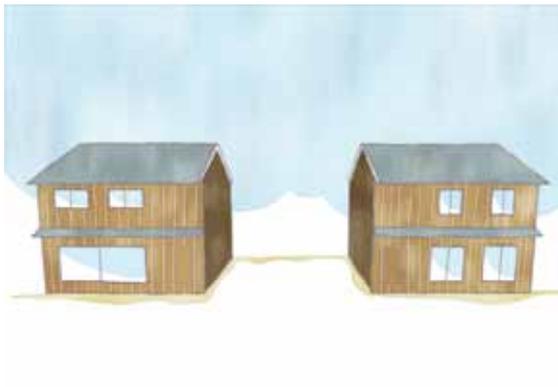
◎ 壁面を連続させるようにしましょう



② 壁面線をそろえる

## 門へいや塀へいを設ける

駐車スペース等を確保するなど、やむを得ず建物を道路から大きく後退こうたいさせる場合は、壁面へきめんのようにデザインされた門へい、塀へい、植栽しょくさい等を設けるなど、まちなみの連続性に配慮しましょう。



△ 駐車が住宅間に挟まれていると  
まちなみが分断されてしまいます



◎ 門や塀を取り付けて壁面のそろったまちなみに  
しましょう



### ③ デザインを工夫する

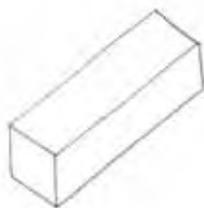


③ デザインを工夫する  
こうばいやね

## 勾配屋根を用いる

伝統的な<sup>やねけいかん</sup>屋根景観を維持するためには、<sup>きりつま</sup>切妻、<sup>よせむね</sup>寄棟、<sup>いりもや</sup>入母屋などの<sup>こうばいやね</sup>勾配屋根を用います。

歴史的なまちなみの中では<sup>りくやね</sup>陸屋根は単調に見えるため、<sup>こうばい</sup>勾配を持った屋根が取り入れられるのが好ましいでしょう。<sup>こうばい</sup>勾配はなるべく3寸（約17°）以上が望ましいと考えられます。



△ りくやね  
陸屋根



○ きりつま  
切妻



○ いりもや  
入母屋



○ よせむね  
寄棟



### ③ デザインを工夫する

## 屋根のスケールを合わせる

軒先側<sup>のきさき</sup>を玄関とする平入り<sup>ひらい</sup>の建物が残る津屋崎のまちなみでは、屋根の形状や大きさによって隣家<sup>りんか</sup>と軒先<sup>のきさき</sup>をそろえ、通りの景観を整えてきました。通りに対して平入り<sup>ひらい</sup>の勾配屋根<sup>こうばいやね</sup>を基調とし、屋根の勾配<sup>こうばい</sup>や大きさ、材料をそろえて、周辺となじむような屋根を設けましょう。屋根のスケールをまち全体で統一していくことで、まちなみの保全、形成を図ることができます。



△ 屋根の勾配や形式が変わると統一感が  
損なわれます



◎ 平入りの勾配屋根が続くと統一感が  
生まれます



## 屋根のデザインを工夫する

歴史的なまちなみを持続するために、屋根の材料は和瓦<sup>わがわら</sup>を基本とします。屋根の色彩としては、和瓦<sup>わがわら</sup>、平板瓦<sup>へいばんがわら</sup>、銅板<sup>どうばん</sup>のような屋根材を用いるときは原則として素材色とします。その他の屋根材を用いる場合、全ての色相<sup>しきそう</sup>において、明度<sup>めいど</sup>は2.5以上5.5未満、彩度<sup>さいど</sup>は0.5以下程度にするように心がけ、周囲と調和する色彩を用いましょう。



いりもや ひらい  
入母屋の平入り屋根



和瓦の素材色



おにがわら いしょう  
鬼瓦の意匠



のきうら  
軒裏の仕上げ



### ③ デザインを工夫する

## 壁のデザインを工夫する

外壁がいへきの伝統的な意匠いしょうには、漆喰しっくい、板張いたばり、木製格子もくせいこうしなどがあります。このような、伝統的に受け継がれてきている意匠いしょうをそれぞれの建物が取り入れて工夫することによって、まち全体のまとまりや連続性が生み出されます。建物の外壁がいへきは、自然素材に見られるような、黄赤、黄、無彩色系しきそうの色相で、3以下程度の彩度さいど、7以下程度の明度めいどの色彩を基本的に用いるようにしましょう。漆喰しっくい、板張いたばり、土壁等つちかべの自然系素材を用いる場合にはこれ以外の色でもかまいません。



しっくい  
漆喰



いたばり  
板張



もくせいこうし  
木製格子



つちかべ  
土壁



③ デザインを工夫する  
たてぐ

## 建具のデザインを工夫する

建具たてぐの意匠は歴史的なまちなみを感じさせる要素です。木製格子もくせいこうしや虫籠窓むしこまどなどを設置する場合は、津屋崎の伝統的な様式とします。その場合、木製建具もくせいを基本とし、木製以外とする場合は黒、茶系統しきそうの色彩としましょう。それ以外の色彩を用いる場合は、壁面へきめんと同様の色相を用いましょう。



もくせいこうし  
木製格子



むしこまど  
虫籠窓



④ 外構をしつらえる



④ 外構をしつらえる

## 駐車場の位置に気をつける

通りに対してそろった壁面線<sup>へきめんせん</sup>は、津屋崎のまちなみの魅力のひとつです。

駐車場を設置するときは、通りに面する壁面線<sup>へきめんせん</sup>をそろえるために、通りに面する場所は避けて裏通りに設置することが望ましいでしょう。もし、通りに駐車場が面するときには塀や生け垣を作るなどの工夫をしましょう。



△ 駐車場によって壁面線が途切れてしまいます



◎ 柵を作ると壁面線がつながります



④ 外構をしつらえる

## 塀や柵を設置する

周りの環境や法律の制約によって、壁面後退するときや、通りに面して駐車場を作るときには、塀や柵を設置して、周りの建物と壁面へきめんを整えるようにしましょう。通りに面する建物の壁やデザインがそろっていることで、まちなみの統一感が保たれます。



△ 壁面線が「でこぼこ」になってしまいます



◎ 駐車場の位置によって調和が生まれます



④ 外構をしつらえる

## まちを緑で飾る

津屋崎はいろいろな木や花が植えられています。玄関先にプランターを置いて住宅の周りを飾る人も多くいます。木や花の存在は、育てている人だけでなく、まちを歩く人の心を和ませてくれます。庭に木を植えたり、玄関先に花を置いて、まちを緑で飾ってみましょう。



© 緑のあふれる美しいまちなみ



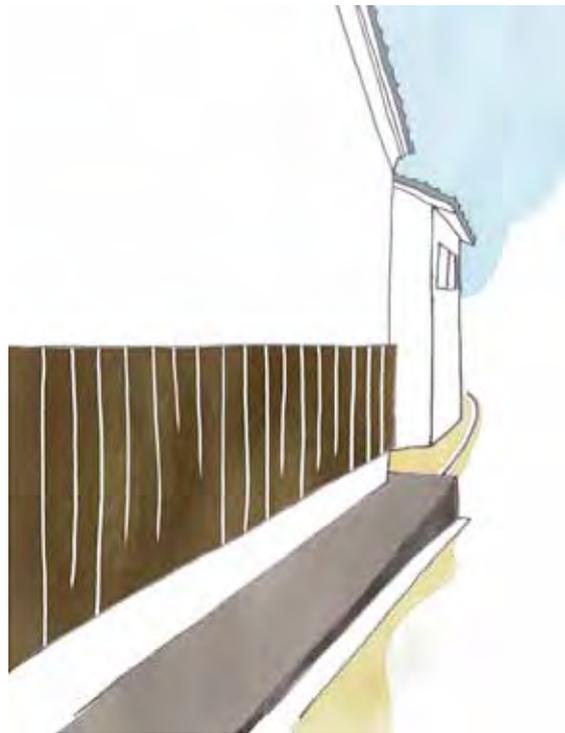
④ 外構をしつらえる

## ゴミ箱の位置に気をつける

津屋崎の魅力は、まちの中を歩いて回ることで感じることができます。住民や来客者がもっと歩き回りたくなるようなまちなみづくりのためには、通りから見えるさまざまな場所に注意を払いましょう。特に、通りに面した場所には、不要なものやゴミ箱を置かないようにしてみましょう。



△ ゴミ箱が目立ってしまいます



◎ 美しいまちなみが主役になります



⑤ 小物に気づかう



⑤ 小物に気づかう

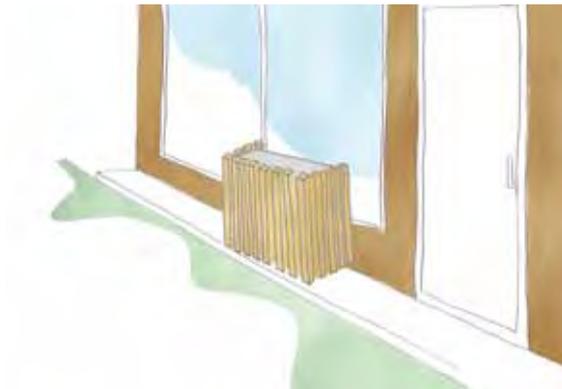
## エアコンの室外機の場所に気をつける

エアコンの室外機の配置に気をつけましょう。まちなみの形成からだけでなく、近隣関係も重要です。

通りに面した場所に室外機を置く場合は、室外機カバーなどを設置するなどして景観に配慮しましょう。



△ 通りから室外機が見えてしまいます



◎ 室外機カバーを作るとまちなみに調和します



⑤ 小物に気づかう

## 自動販売機の色は落ち着いた色にする

自動販売機には原色が使われているものがありますが、伝統的な津屋崎の要素にはありません。そのため、カラフルな色だけが目立ってしまいます。

自動販売機を設置するときには、設置者自らが、まちなみになじむような色を使うよう努力しましょう。また、回収箱の色にも注意しましょう。



△ 原色の自販機だけが目立ちます



◎ まちなみになじんだ自販機になります



⑤ 小物に気づかう

## 電柱・電線を移動させるときには相談する

電柱や電線があまりにも目立つと、まちなみの魅力が弱くなってしまいます。

電柱や電線は公共の工作物ですので、移設するときには、行政機関や電力会社に相談しましょう。



△ 電柱と電線によって、  
空が分断されてしまいます



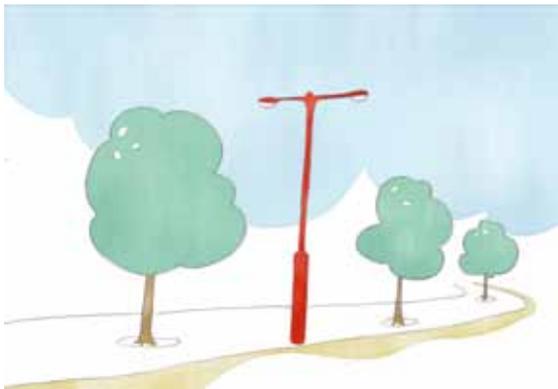
◎ 空とまちなみが調和します



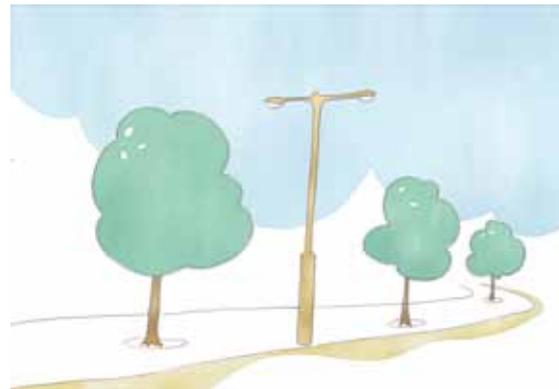
⑤ 小物に気づかう

## まちなみにとけ込む街灯にする

街灯はデザインによって、主役にも脇役にもなることができます。津屋崎のまちなみを引き立てるために、色や形に気をつけて名脇役になるデザインにしましょう。たとえば、黒系や茶系の色を使用すると、津屋崎のまちなみになじみ、海や木々の緑が引き立ちます。



△ 街灯が木々や空から浮いてしまいます



◎ まちなみに配慮した街灯にしましょう

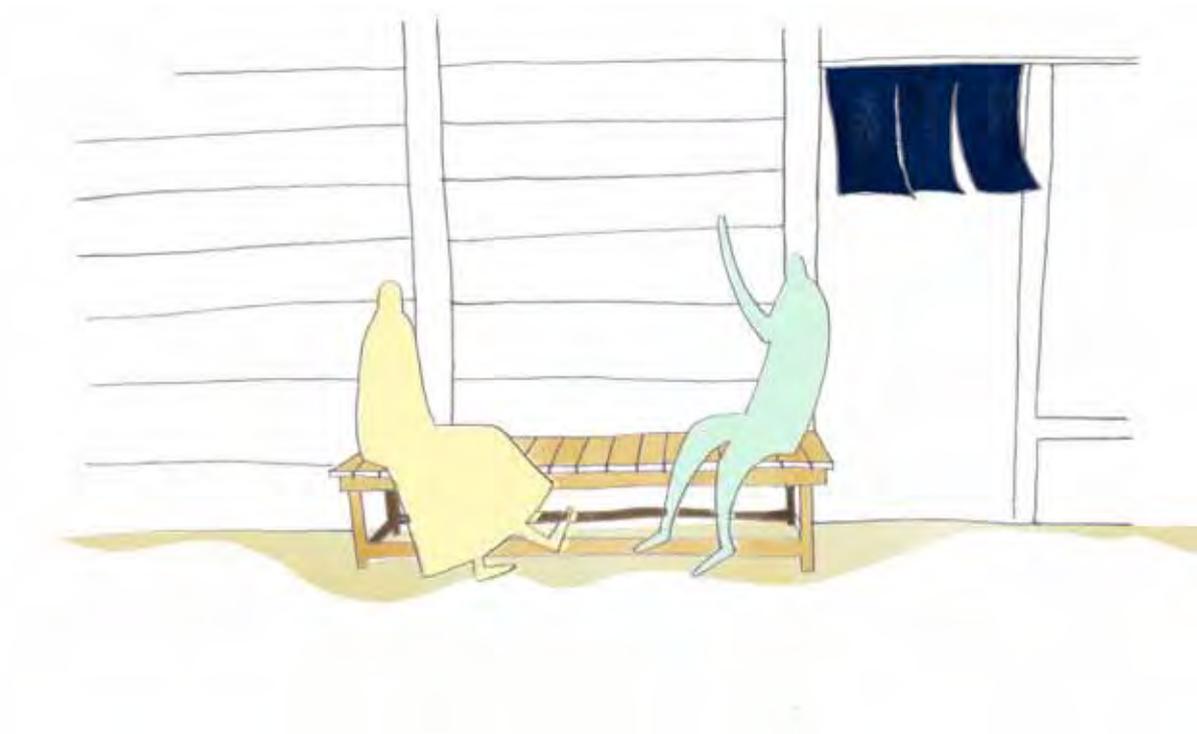


⑤ 小物に気づかう

## トコやバンコで生まれる交流

津屋崎では、昔から店先にトコを置く習慣があります。トコは、畳1帖くらいの縁台のようなものです。以前は現在ほど住宅が広くなかったため、トコを出して、子どもの遊び場や大人のコミュニケーションの場として利用されていました。また、町内の行事には、トコを寄せ集めて利用するなどしていました。

まちなかでちょっとしたお話しをする場として、店先や家の前にトコやバンコを置いてみましょう。



◎ トコ（バンコ）で交流が活性化します



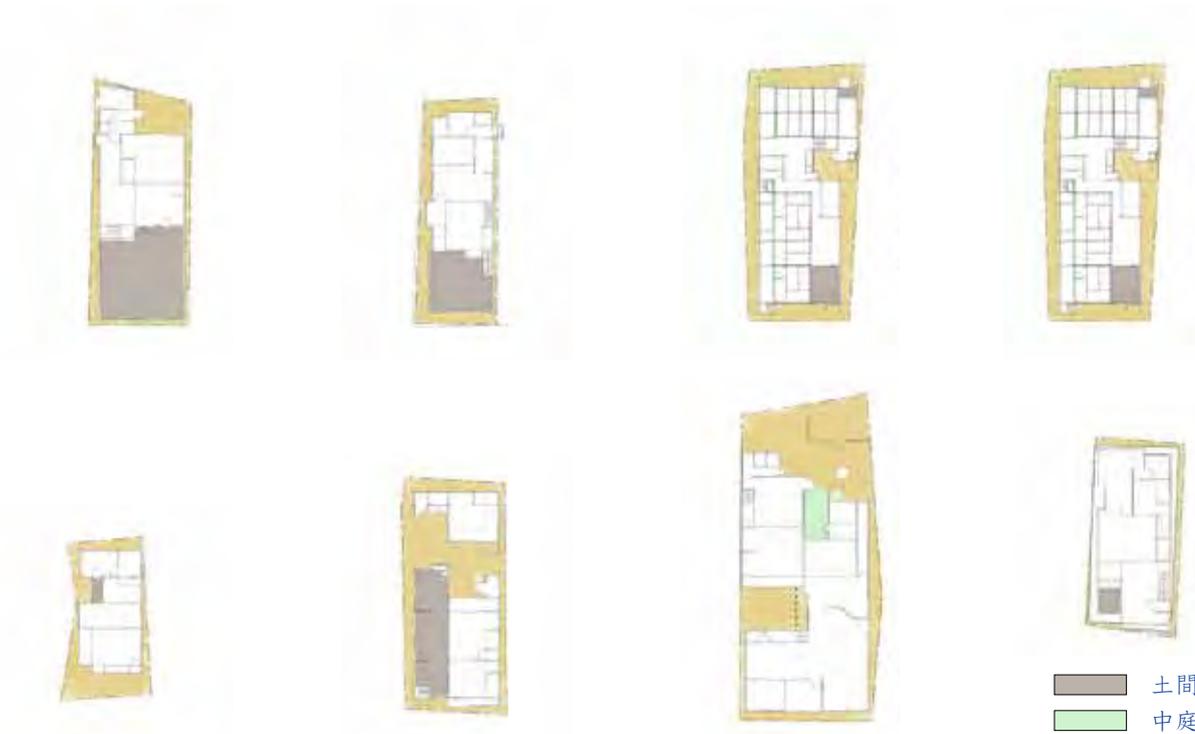
## ⑥ 伝統的な空間を生かす



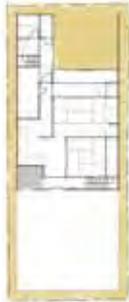
⑥ 伝統的な空間を生きる  
ちわり

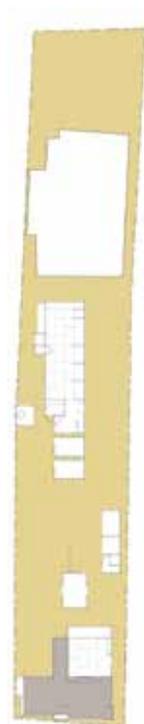
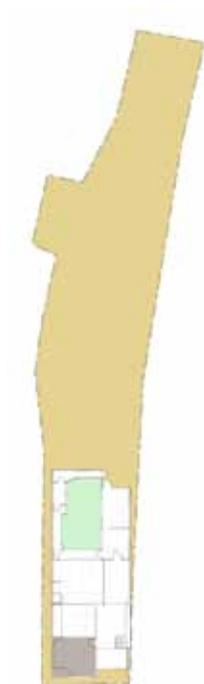
## 地割を生かす

江戸時代には間口<sup>まぐち</sup>の幅で課税されていたので、通りに面した間口が狭く、細長い敷地形状が特徴です。以前は敷地の形状を生かすために、通り土間や中庭をしつらえていました。私たちもこの細長い地割<sup>ちわり</sup>の特徴を生かして、建物を建てましょう。



◎ 伝統的な住宅には土間や中庭が使われています





■ 土間  
■ 中庭



## スアイのある風景

スアイは、建物と建物の間にある幅1m程度の伝統的な生活道のことで、日常生活での通行や火災・津波時の抜け道として利用されてきました。また、子供の遊び空間や地域のコミュニケーション空間でもありました。

スアイは、人と人をつなぐ重要な緩衝帯でもあったのです。

スアイの精神を継承するために、新しく建物を建てるときには、建物と建物との空間に十分配慮しましょう。また、荷物や室外機などを置くときもスアイの意味を思い出しましょう。



◎ スアイ・ヒヤからの景色は津屋崎の魅力的な風景です



⑦ 色をそろえる



⑦ 色をそろえる

## 藍色を使う

まちなみに統一感を出すために、まちのイメージカラーを作ることはとても有効です。津屋崎には藍の家があり、またマップや看板の多くには藍色が使われています。新しくのれんや看板を作るときには藍色を使ってみましょう。



◎ 藍色が津屋崎のまちにまとまりを作ります



⑧ 広告物や看板はひと工夫する



⑧ 広告物や看板はひと工夫する

## 広告や看板の大きさに注意する

広告や看板は目立たせたいものですが、大きすぎる広告や看板を取り付けてしまうとそれだけが注目されてしまい、津屋崎のまちなみの魅力がぼやけてしまいます。広告や看板を取り付けるときには、津屋崎のスケール感に合った大きさにしましょう。



△ 大きな看板は津屋崎の魅力をぼやけさせます



◎ まちなみに合う看板にしましょう



⑧ 広告物や看板はひと工夫する

## サインやマップの色や書体に気を使う

サインやマップには注目を集めるために、明るい色や大きな文字を使ったものがあります。目立つサインやマップは分かりやすいのですが、乱立してしまうと、まちがまとまりのないものになってしまいます。

サインやマップに使う色は、落ち着いた色にしてみましょう。また、書体は明朝体や教科書体などまちなみになじむものにしてもよいでしょう。



△ まとまりのないまちなみになってしまいます



◎ サインによってまちなみがまとまります



⑧ 広告物や看板はひと工夫する

## 藍色の標識を大切にする

津屋崎千軒の中には、木製の藍色の標識があります。この標識は、手づくりで作られたもので、旧町名などが記されています。旧町名は現在も親しまれています。木製なので、朽ちてなくなっているものもありますが、この木製の藍色の看板を守っていくことも津屋崎千軒の伝統を守っていくことのひとつとなるでしょう。



藍色の標識（北の二区、波折宮付近）



⑧ 広告物や看板はひと工夫する

## まちなみに合うのれんやのぼりにする

まちの中に置かれるのれんやのぼりは、魅力的なまちなみを作るための重要な要素です。のれんやのぼりを置くときには津屋崎のまちなみに合う色や書体にしましょう。藍色をイメージカラーとして用いたり、明朝体を使ったりすると、まち全体の雰囲気にとままりが生まれます。



△ まちなみからのぼりだけが浮いてしまいます



◎ 津屋崎の魅力を引き立てます



⑨ お店はまちなみと調和する



⑨ お店はまちなみと調和する

## 津屋崎の特徴を生かした空間にする

津屋崎の伝統的な店舗には土間があり、店先にはトコやバンコが置かれていました。この空間は、地域の交流の場としての役割を担っていました。現代でも土間、トコやバンコは、交流を生み出す効果的な空間となります。新しい店舗をつくるにも、土間やトコやバンコのような地域の交流を意識した空間を創造してみましよう。



◎ 土間・トコ・バンコを使うと津屋崎らしい空間になります



## 5. まちなみデータベース



# 石垣





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



## スアイ・ヒイヤ

隣家との間の約1m程度の生活道。

岡の方ではスアイ、北、新町あたりではヒイヤと呼んでいます。

日常生活の通行や火災時の抜け道として利用されていました。





1



2



3



4



5



6



7



8



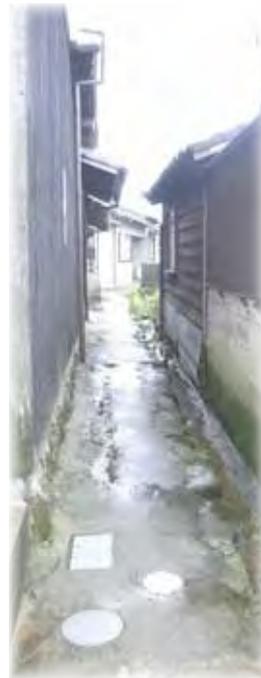
9



10



11



12



1 3



1 4



1 5



1 6



17



# 神社





1 天神社



2 秋葉神社



3 波折神社



4 大日神社



5 恵比須神社



6 金刀比羅神社 御旅所



# 寺院





1 教安寺



2 善福寺



3 新泉岳寺



# 祠・地蔵





1 地蔵堂



2 波切不動尊



3 地蔵堂



4



5 大師堂



6 庚申様 (一説には荒神碑)



7 日切地藏尊



8 大師堂



9 地藏堂



10 大師堂





# 石碑





1



2



3



4



5



6



## 藍色の標識





1



2



3



4



## 樹木(単体)





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



1 7



1 8



1 9



2 0



2 1



2 2



2 3



# 樹木(生垣)





1



2



3



4



5



6



7



8



# 樹木 (塀+生垣)





1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15





## 樹木（低木＋高木）





1



2



3



4



5



6



7



8



## 樹木（複数）





1



2



3



4



5



6



7



8



## 樹木(花)





1



2



3



## 古写真

古写真から以前の景観を知ることができます。

吉田醤油店に1本、豊村酒造に2本の煙突が残っていた頃の津屋崎のまちなみがわかります。まちの繁栄と賑わいの一端が、遠景からもうかがい知ることができます。



吉田醤油福間醸造場

(出典：津屋崎宮司写真帳 (大正 14 年)、所有：福津市)



豊村酒造の煙突が2本の頃

(出典：津屋崎宮司写真帳 (大正 14 年)、所有：福津市)



左から吉田醤油店の煙突、占部醤油店の煙突、豊村酒造の煙突

(出典：不明、所有：福津市、提供：上田弘美氏)



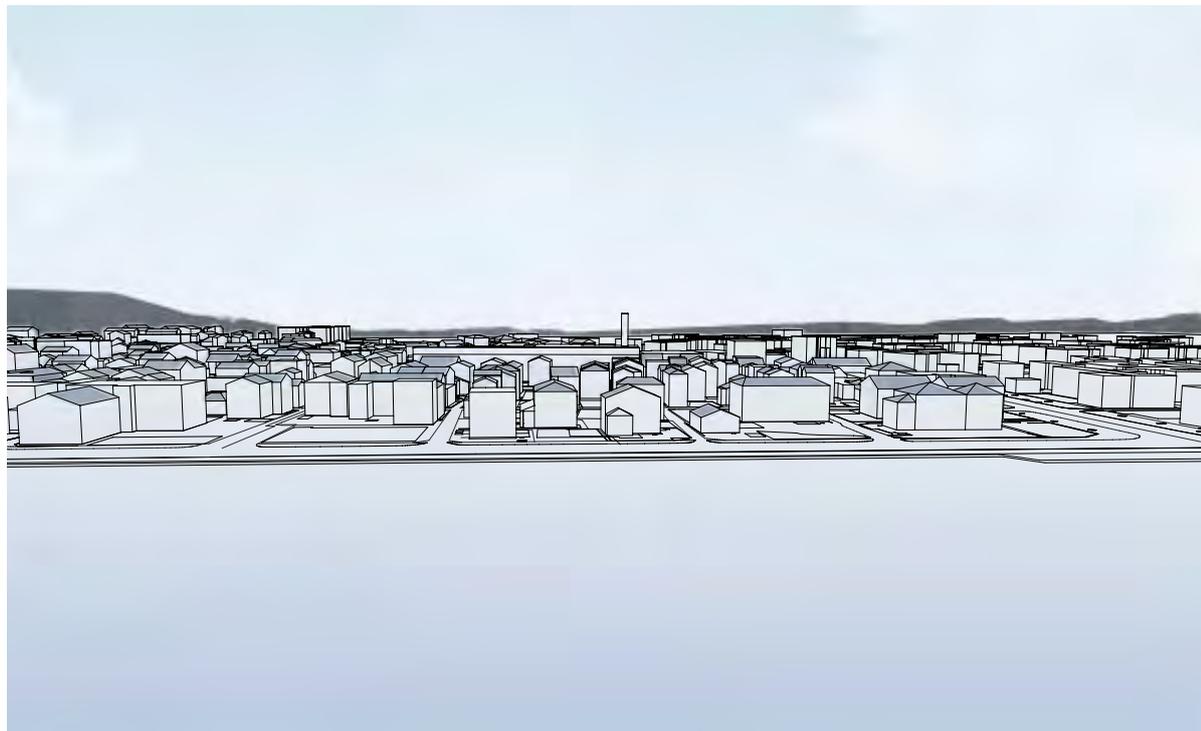
## まちなみ復原 CG

津屋崎のまちなみを検討するために、復原CG（コンピューターグラフィック）を制作しました。

藍の家などに残る伝統的町家の形式・意匠要素を参照しています。また、遠景まちなみも復原しました。個々の建物高さは忠実に再現しています。



伝統的形式復原 CG



海側から津屋崎のまちなみを眺める



勾配屋根が多いまちなみを俯瞰する



## 未来への提案

「津屋崎千軒マスタープラン」をテーマに、九州大学大学院芸術工学府の大学院生と環境設計学科の学部4年生が津屋崎の未来への提案を行いました。

スアイなど伝統的空間の再構築による「新しい公共空間の創出」、減築や空き家活用による「近隣関係を紡ぐすまい」、海岸沿いデッキや遊歩道による「回遊空間」、夏の学校や結婚式場あるいはアーティスト・イン・レジデンスなど「地域と共に創るビジネス」、保存エリアの明確化による「開発の抑制」、海への景観軸の設定などについて、地域のみなさまとそれらの可能性について議論しました。



◀まちのイメージ



▲50年後のイメージパース②



▲50年後のイメージパース①



◀経年変化のイメージ

## ●コンセプト

人口の減少や空き地や空き家等の現状から、津屋崎千軒に住む人の生活が、住宅内部から外部へ拡張していくことが必要と考えた。

地域内で回遊性が高まるような工夫をすることで、生活圏域が伸縮するという提案。

## ●提案

### 1. スアイの拡張

現在のスアイを広げ、さらに四面接道にする。

### 2. 住宅の試案

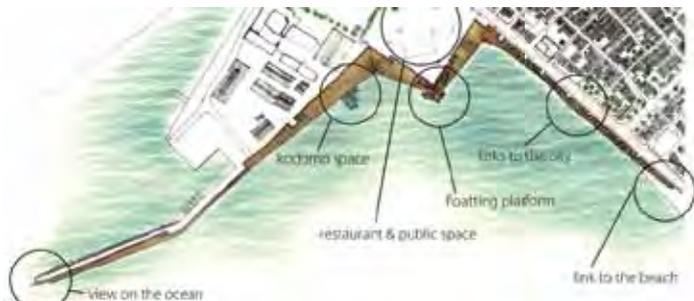
通りに間口をもつ住宅に減築、曳家を行う。そこに生まれたヴォイド（抜けた空間）に住宅機能を補充する機能を挿入する。

### 3. 公共空間の拡大

現在のコンクリート舗装の部分を緑、ウッドデッキ、土間空間、砂浜などに替えることで、公共空間を新たに作る。

A グループ「伸縮するまち」

鎮西・三浦・岩崎・佐藤・吉村・大賀・阮



▲海とまちをつなぐ架け橋

◀▼空き地を利用してまちと住宅をつなげる  
イメージ模型／断面イメージ



▲スアイを活かした空き家利用のイメージ

## ●コンセプト

津屋崎千軒のまちなみを歩いて、海とまちとが見え隠れする風景に、このまちのアイデンティティを感じた。

「歩行者」の視点から生活風景を再考し、生活空間をよりよくしようという提案。

## ●提案

1. 海とまちとの大きな架け橋をつくる。

海岸通りによって、まちと海が隔てられているため、デッキをつくることでまちと海とをつなぐ。

2. スアイでネットワークを強化

スアイに建築を付帯させる。スアイに接する空き家をギャラリーや図書館に改修する。

3. しみだす空き地

空き地にまちの機能（農地、保育園、酒屋）をつくり、暮らしの様子をしみ出させる。

B グループ「Pedestrian City」

中土居・島本・田原・西・範・Stephane・Louise



▲▼林間学校施設 津屋崎千軒に残っている長屋の立面をイメージして計画



▲ゲストハウス プラン/イメージスケッチ

## ●コンセプト

現在の海岸通りからは奥にある歴史的まちなみの良さが気づきにくい。

訪問者がリピーターとなるような特別な非日常空間をつくる提案。

## ●提案

1. 祝祭に満ちる津屋崎-「結婚式場」の計画
2. 海を描く「芸術家10人のアトリエ」  
アーティスト達がひとつの建物に住む。  
半戸外のスアイの連続。
3. 「林間学校」  
かつてのスアイや現在のスアイを活かし、  
子どもや学生を呼び込む計画。
4. 「裏と表を再構成する」-ゲストハウス計画  
海から内側につなげるように建物を建てる  
ことで津屋崎千軒内の魅力を外へ引き出す。
5. スクリーンのような建物

C グループ「みち／ひき」

井佐子・小山・藤田・恒藤・福田・榎原



▲ 30年後のゾーニング



▲住宅には伝統的な住居の要素をとり入れる



▲溜まり場 - 腰掛けて海を眺める



◀◀古民家の建具をしおさい通りに設置  
普段は憩いの場とし、イベント時などに使用する



▲ひとの暮らしと農業を結びつける施設

## ●コンセプト

津屋崎千軒の古地図より、昔は住宅が密集していた部分とそれ以外の部分の境界がはっきりしていた。

今後人口が減ることを念頭に置き、コンパクトなまちを実現しようという提案。

## ●提案

現在の日本の住宅が約30年で建て替わることから、古地図での「輪郭」の外側にはこれ以上新築せず輪郭の中に住宅地を集約する。

### 1. しおさい通りの仮設空間

古民家の建具を使用した仮設空間。

### 2. 海岸通り

一方通行にすることで歩行者空間を拡張。

### 3. 千軒通り沿いの住宅

伝統的な住宅の土間、中庭などを取り入れる。

### 4. 溜まり場

道端で話すという風景を残す。

### 5. まちの境界沿いの農業施設

農業を通した交流施設。

D グループ「30年後の津屋崎」

大塚・大庭・大園・Kevin・木下・張・Pol-Alain・宮内



# 津屋崎千軒マップ



【ご協力いただいたみなさま】

編集・発行にあたり、多くの方々にご協力頂きました。ここに記して、感謝の意を表します。

◇ワークショップ参加者のみなさま（敬称略）

秋貞伴臣 秋貞ひさ絵 井ノ上琢海 浦野茂喜 浦野子エ 大賀康子 角信喜 金氣順也 窪園宏俊 柴田富美子  
渋谷和美 清水舞子 津崎米夫 中村洋基 秦暁子 福永紀子 船場文博 堀出太一 正岡功 吉村勝利

【ワークショップスタッフ】

九州大学大学院芸術工学研究院 田上研究室（福岡市南区塩原 4-9-1）

田上健一（九州大学准教授）

竹下あゆみ 木村隆志 平林拓朗 竹下将史 江藤雄大 玉城力 堤啓介 木下直美 齋藤香菜 中島彰子 濱谷洋次  
鎮西武 藤田彩香 熊井順一 範懿 松吉大地 桑山直子 大園咲子 佐藤章 島本春花

【編集・デザイン】

九州大学田上研究室

木下直美 鎮西武 藤田彩香 熊井順一 範懿

町並みづくりの道しるべ 津屋崎千軒の風情を守り育てるために

津屋崎千軒まちなみガイドライン

2013年3月発行

福 津 市